

梅雨の時期ですね。今年は、例年になくとても早いようです。西日本では例年より3週間程早い5月中旬に梅雨に入りました。5月の爽やかな日から一変、じとしとした日が続きます。季節の変わり目で梅雨冷の寒い日もありますが、皆さんもお身体にはご自愛くださいませ。

大善寺の「藤切り祭」

令和3年5月8日（土）、大善寺の藤切り祭（柏尾の藤切り祭・山梨県指定無形民俗文化財）が行われました。藤切り祭は、役行者が金峰山で大蛇を退治したという故事に由来する祭りで、関東一円の奇祭の一つといわれています。また、地元では「柏尾のお薬師さん」の名でも親しまれています。かつては県下の法印・導師が集まり執行され、大蛇に見立てた藤づる（藤の根）を御神木から切り落とし、群衆がそれをお守りとして激しく奪い合う勇壮なお祭りです。

今年は昨年と同様、新型コロナウイルス感染症対策として、大善寺井上住職をはじめ、真言宗の僧侶、檀家総代の方々のみで執り行われました。



■ 修験者による藤切り

儀礼の流れは例年とは異なりますが、本堂で家内安全、無病息災、果樹豊作など様々な願いが込められた護摩祈祷が行われた後、山伏問答、稚児の舞、藤切りなどが執行されました。



■ 大蛇を先導する修験者



■ 山伏問答

福蔵院の清雲住職が門者を演じました。



■ 稚児の舞

祭典準備

祭典の準備についてご紹介します。

■ 5月2日（日）藤取り

大善寺と檀家総代の方々によって、大善寺周辺の山から藤づる（藤の根）を調達する「藤取り」が行われました。藤切り祭の主役である大蛇や、それを吊るす御神木、守り藤などはすべての藤を使って作られるため、檀家総代の方々は事前に藤取りの下見を重ね、祭礼に必要な分の藤づる（藤の根）を調達します。



■ 5月6日（木）旗立て

「旗立て」は、祭典の旗を立てる、つまり、祭典準備のことです。例年通りであれば境内に立てられた御神木に、「タガ」と呼ばれる足場となる藤づる（藤の根）を巻き付けて形を作ります。タガの内側にカシの葉を詰め込みます。同時に、藤づる（藤の根）を約20センチに切って表面を磨き、祭当日来訪者に守り藤として配られる「守り藤」を作ります。また、別の組は「大蛇」を仕立てていきます。



上条農園 ジャガイモの土寄せ

5月9日（日）、上条農園にて、上条を活性化する会によるじゃがいもの土寄せを行いました。霜対策で覆っていた不織布を取り外し、鍬で肥料・土を株元に寄せました。順調に育っています！



みんなの畑 里芋の仮植えと防獣ネット張り

4月3日（土）、みんなの畑にて、上条を活性化する会による里芋の仮植えが行われました。まず、越冬保存していた昨年収穫した芋を地面から掘り起こしました。次から次へと芋がごろごろと出てきました！そして、この芋を芽が出る方を上にして並べて植え付けました。次は、芽が出てくる6月頃に本植えを行う予定です。

4月25日（日）には、獣害対策のために畑にネットを張りました。一昨年に設置したものを撤去し、今回は支柱に単管パイプを使い、畑をぐるりと囲うように打ち込みました。切り出してきた竹も補助杭として使いました。防獣ネットを張り、ネットの下を固定し、最後に入り口を作って完成です！単管パイプを使ったことにより強度も増しました。これでひと安心ですね！

